

平成17年12月28日発行

ISSN 0918-9173

福岡県保健環境研究所年報

第32号

平成16年度

*Annual Report of the Fukuoka Institute
of Health and Environmental Sciences
No.32 2004*



福岡県保健環境研究所

はじめに

平成16年度は県内でノロウイルス集団感染事件，コイヘルペス感染によるコイ40万匹斃死事件などが発生し，研究所の関連部署はその対応に追われました．また，京都，山口，大分の鳥インフルエンザの発生，新型肺炎重症呼吸器症候群（SARS），牛海綿状脳症（BSE）など新興感染症の課題が尾を引き，国民に感染症対策並びに食の安全への対策の重要性を改めて認識させた年でもありました．

更に，環境問題では京都議定書が平成17年2月16日に発効し，本格的にCO₂対策が実行されることとなりました．身近では花粉症，シックハウス症候群，アスベスト問題が課題となっております．

一方，保健環境研究所に関することでは，福岡県の行政改革の一環として本研究所を含む県立5試験研究機関の活性化について検討が進められておりますが，平成16年4月には試験研究機関改革検討委員会外部アドバイザーの委員を本研究所に迎えてヒアリングが実施されました．また，平成14年度から制度化された外部評価も3年目となり，平成16年10月に福岡県保健環境関係試験研究外部評価委員会が実施されました．平成17年1月には評価報告書をいただき，この報告書に指摘された課題解決に向け，全力を尽くしているところであります．

本研究所の役割は，保健・環境行政を科学的・技術的側面から支えることではありますが，その役割を更に強化するためには，従来の実態把握・課題解決型の研究にとどまらず，予防対策型の研究，更には，試験検査・調査研究に基づく現場からの政策提言が必要と考えています．

この実現のため，地方衛生研究所全国協議会並びに全国環境研協議会が厚生労働省，環境省と共に検討している，当該研究所の役割，機能強化に向けての方策と連携をとりながら，本研究所の使命達成のため，本庁関係部署の協力のもと，所員一丸となって努力していきたいと考えております．

最後に，この年報から本研究所の平成16年度に果たしました役割，活動を御理解いただき，皆様からの忌憚のない御意見をいただければ幸いです．

平成17年12月

福岡県保健環境研究所長 吉村健清